ロータリー財団 地区補助金事業報告

広島東南ロータリークラブ（Ｇ－７）

広島県立広島病院へ緩和ケアのための移動補助器具（患者移動用マット）６台の贈呈

贈呈式

- 日　時：2014年8月8日(金)午後1時30分より
- 場　所：広島県立広島病院

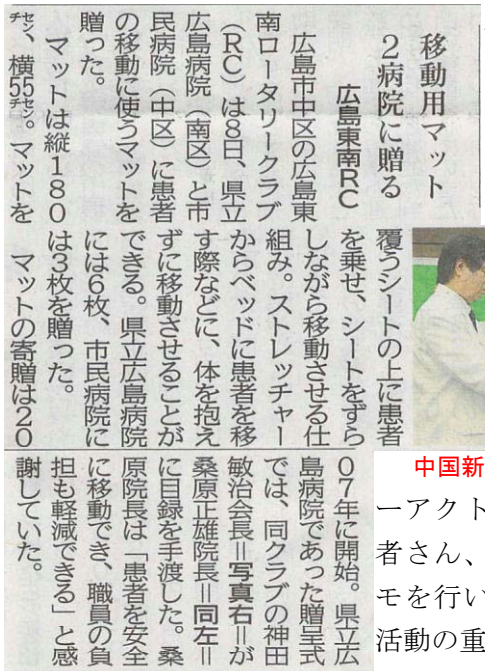
プロジェクト概要

今年度、ロータリー財団地区補助金事業として承認されたプロジェクトは「広島県立広島病院へ緩和ケアのための移動補助器具（患者移動用マット）６台の贈呈」です。
2007-08年度・広島県立広島病院、2009-10年度・広島市立広島病院、2011-12年度・広島市立舟入病院に地区補助金事業として患者移動用マットを贈呈。各病院から「患者さんがベッドを移動する際に苦痛を感じることなく楽に移動でき大変喜ばれていること」「医療スタッフが腰を痛めたりすることもなく大変ありがたい」との好評を得ていました。
今年度は広島県立広島病院を贈呈先に選定しました。
移動補助器具は、がんをはじめとする重症患者、ご家族、医療スタッフの肉体的負担、精神的負担を軽減することができます。そのことにより広島県立広島病院の医療活動が充実され、地域住民の安心・安全はもとより医療の向上につながることと期待されます。

桑原院長より感謝状を受ける

広商ＩＡＣ体験デモ

贈呈式には病院から桑原正雄院長、藤川由美子副院長、内山博文事務局長をはじめ６名の看護師長のご出席を賜り、当クラブからは神田敏治会長他８名のロータリアンと広島商業高校インターアクトクラブの瀬良紀輝顧問、生徒４名の参加により執り行われました。

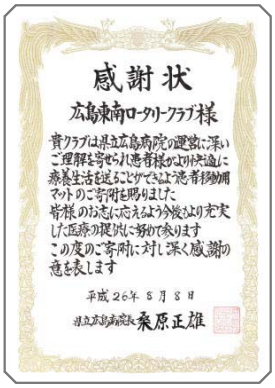


移動用マット
２病院に贈る
広島東南RC

広島市中区の広島東南ロータリークラブ（RC）は8日、県立広島病院（南区）と市民病院（中区）に患者の移動に使うマットを贈った。
マットは縦180センチ、横55センチ。マットを覆うシートの上に患者を乗せ、シートをずらしながら移動させる仕組み。ストレッチャーからベッドに患者を移す際などに、体を抱えずに移動させることができる。県立広島病院には6枚、市民病院には3枚を贈った。
マットの寄贈は2007年に開始。県立広島病院であった贈呈式では、同クラブの神田敏治会長＝写真右＝が桑原正雄院長＝同左＝に目録を手渡した。桑原院長は「患者を安全に移動でき、職員の負担も軽減できる」と感謝していた。

中国新聞 2014年8月9日

神田会長から「移動補助器具６枚」の目録が桑原院長に渡され、桑原院長から「患者様の負担軽減と移動の安全確保、医療スタッフの省力化が可能となり、大切に活用させて頂きます」と謝辞が述べられ、感謝状が交付されました。
贈呈式の後、病棟研修室においてインターアクトの生徒さんが医療スタッフの指導の下患者さん、スタッフの立場で移動補助器具の体験デモを行い、実用性について確認、職業体験と奉仕活動の重要性について学習することができました。


感謝状

広島東南ロータリークラブ様

貴クラブは県立広島病院の運営に深いご理解を寄せられ患者様がより快適に療養生活を送ることができるよう患者移動用マットのご寄附を賜りました
皆様のお志に応えるよう今後ますます充実した医療の提供に努めて参ります
この度のご寄附に対し深く感謝の意を表します

平成26年8月8日
県立広島病院長 桑原正雄